

だれもが使いやすく

出かけられる街へ

～さりげない配慮、ちょっとした優しさ～



障害福祉課

1 施設・店舗をお持ちの方へ

近年バリアフリー意識の普及により、街の施設・店舗の使いやすさがずいぶん向上しましたが、いろいろな人がいる社会の中では、本人だけが抱えている「不便・不都合な状況」がまだまだ存在します。

だれもが利用しやすい施設・店舗になるにはどうすれば良いのでしょうか？



ヒントは、すべての人に配慮した考え方である、ユニバーサルデザインを提唱したロナルド・メイス博士の7つの原則があります。施設や店舗の状況をその原則に照らしてみると、配慮する場所や箇所気づくのではないのでしょうか？

ユニバーサルデザインの7つの原則

- ①だれもが同じように使いこなせること
- ②その人の状態にあわせて柔軟に使えること
- ③使い方が簡単なこと
- ④わかりやすく理解しやすいこと
- ⑤安全・安心であること
- ⑥少ない力で楽に使えること
- ⑦使いやすい大きさや広さがあること



利用しやすい施設・店舗となるためには、大規模な改修が必要なのではないでしょうか？

そうではありません。

何らかの配慮を必要とする立場の方の生活を、自分に置き換えてイメージしてみましょう。

わかりやすく表示されているサインや使い勝手の

良い施設・店舗内の配置はとても便利で、

安心して気持ちよく利用できるのではないのでしょうか。

それぞれの施設・店舗に合った工夫を取り入れたユニバーサルデザインを実践していくことにより、だれにでもやさしく利用しやすいユニバーサル社会（共生社会）へと近づきます。

通路に物を置くなど、普段の何気ない行為が配慮を必要とする人に迷惑をかける場合もあります。反対に何気ない配慮が、さりげない思いやり・おもてなしとなります。マナーなどを態度や行動に表すこと、心のユニバーサルデザインも考え

ていきましょう。



2 さりげなく利用しやすい場所ごとの工夫





出入口 だれでも入ることができる工夫

 出入りに困っている人がいたら、声をかけて手伝う。

 おだやかなスロープを設ける。

 「お手伝いします」との内容の案内掲示をする。


 「ほじょ犬マーク」を貼り、「ご一緒にどうぞ」と声を掛ける。


 自動ドア、または引き戸にする。


 出入口の位置を音で知らせたり、見つけやすくする。



駐車場 乗降りしやすい工夫

 車いす利用の方等から事前連絡を受けた場合は、出入口に近い場所及び幅の広い駐車スペースを確保する。








 車のドアを全開にできるように、幅の広い駐車スペースを設ける。

 トランクからの出し入れのため、後部スペースを設ける。









通路・廊下 移動しやすい工夫

-  必要な時に使えるスロープを用意する。
-  靴のはき替えが必要なところには、椅子などを用意する。
-  段差があるところには、ゆるやかなスロープを設置する。
-  段差やスロープを認識しやすくするように色を付ける。
-  通行の邪魔にならないように、通路の整理をする。
-  車いすが通行できるように、通路幅をとる。
-  足元がよく見えるように照明を明るくする。




施設・店舗内 不便なく利用しやすい工夫

-  「ゆっくりどうぞ」などの声かけ、手伝いをする。
-  車いすに乗ったままテーブル席を利用できるように、移動できる椅子にする。
-  コミュニケーションボード（指で示して意思表示が行えるもの）を用意する。
-  物品陳列棚から商品を取ることに困っている人には声かけ、手伝いをする。




レジから袋詰めするための台へ商品の移動の手伝いをする。

筆談できる用意をしておく。

音声呼び出しだけでなく、文字情報による表示も行う。



トイレ 外出時重要な場所、利用しやすい工夫

いつも清潔に保つ。

できる限り広いスペースを確保する。

車いすに乗ったままトイレに入れる。

扉を引き戸にする。

場所の表示を分かりやすくする。

手すりを設置する。

ベビーチェアやオムツ交換台を設置する。

手荷物を置く棚を利用しやすい高さにする。



利用しやすい工夫は、これだけではありません。

「気づき」からスタートし、いろいろな立場の方の「便利」や「快適」を考えてみましょう。



3 施設・店舗の確認チェックリスト

それでは、さりげない配慮や利用しやすい工夫が出来ているか確認してみましょう。チェックがついていない箇所は、どの様な配慮ができるか考えてみましょう。

<input checked="" type="checkbox"/>	さりげない配慮のチェックポイント
<input type="checkbox"/>	入口は、なるべく段差をなくしている。
<input type="checkbox"/>	入口部にはスロープも設置している。
<input type="checkbox"/>	出入口は、自動ドアもしくは、引き戸にしている。
<input type="checkbox"/>	「お手伝いします」との案内掲示を出している。
<input type="checkbox"/>	「ほじょ犬マーク」を貼っている。
<input type="checkbox"/>	幅の広い駐車スペースを出入口付近に設けている。
<input type="checkbox"/>	通路の段差をなくしている。
<input type="checkbox"/>	段差やスロープを認識しやすいよう先端に色をつけている。
<input type="checkbox"/>	靴の履き替えの際に、荷物を置けるよう椅子を用意している。
<input type="checkbox"/>	通路は通りやすい幅（車いす利用者の方）を確保している。




<input checked="" type="checkbox"/>	さりげない配慮のチェックポイント
<input type="checkbox"/>	足元が良く見える照明となっている。
<input type="checkbox"/>	テーブル席の椅子は移動できるものになっている。
<input type="checkbox"/>	テーブルは、車いす利用の方が使いやすい構造となっている。
<input type="checkbox"/>	コミュニケーションボード（指さしで意思表示）がある。
<input type="checkbox"/>	筆談できることを掲示している。
<input type="checkbox"/>	呼出し等には音声と、文字情報の両方で伝えている。
<input type="checkbox"/>	トイレスペースはできる限り広いスペースを確保している。
<input type="checkbox"/>	扉は引き戸で、80 cm以上の幅がある。
<input type="checkbox"/>	トイレの場所をわかりやすく表示している。
<input type="checkbox"/>	トイレ内には手すりを設置している。
<input type="checkbox"/>	ベビーチェアやオムツ交換台を設置している。
<input type="checkbox"/>	手荷物を置く棚等を設置し、利用しやすい位置にある。

だれもが加齢に伴って、身体機能の低下が増してきます。ユニバーサルデザインを取り入れることは、全ての方に関係あることです!!



知っていますか？ いろいろな特徴と配慮

分類	特徴	配慮
高齢の方	<ul style="list-style-type: none"> ・文字が見えにくくなる。 ・音が聞こえづらくなる。 ・物覚えが悪くなる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体や考え方の個人差に対応する。 ・相手のペースに合わせる。
妊娠中の方	<ul style="list-style-type: none"> ・足元が不安定になる。 ・中腰ができなくなる。 ・臭いが気になる。 ・足元が冷えやすくなる。 ・重いものが持てない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身体へのいたわりが必要。環境に注意する。 
子どもや子ども連れの方	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから目が離せない。 ・オムツ換え等トイレに困る。 ・段差や凸凹に困る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの見守りが必要。 
身体に障がいのある方	<ul style="list-style-type: none"> ・急な坂道や傾斜に困る。 ・段差や凸凹、狭いところは通りにくい。 ・駐車場やトイレの広さに余裕が必要。 ・物を持つのに両手を使えない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声をかけ、意思を確認する。 

分類	特徴	配慮
目の不自由な方	<ul style="list-style-type: none"> ・障害物があると通りにくい。 ・商品の選定や支払には手助けが必要。 ・目の不自由な方、全てが点字を理解しているわけではない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・声かけ、意思を確認しましょう。 ・困っているとき、危険な場所では誘導する。 
耳の不自由な方	<ul style="list-style-type: none"> ・相手の言っていることがわからない。 ・アナウンスや危険に気づかない。 ・外見ではわからない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションは相手が納得するまで行う。 ・手話での対応。 ・口話での対応（大きく口を開け、区切って話す。） ・視覚情報で補う。 
内部障がいのある方	<ul style="list-style-type: none"> ・外見ではわからない。 ・疲れやすい。 ・電磁波等の影響を受ける機器をつけている場合がある。 ・タバコの煙が苦痛な場合がある。 ・トイレに困る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・負担をかけないように接する。 

分類	特徴	配慮
知的障がいのある方	<ul style="list-style-type: none"> ・複雑な話や抽象的なことは理解しにくい。 ・人に尋ねたり自分の意見を言うのが苦手。 ・ひとつのことに執着したり、同じことを繰り返す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にわかりやすい言葉で接する。 ・子ども扱いしない。 ・穏やかな口調で声をかける。 
精神障がいのある方	<ul style="list-style-type: none"> ・ストレスに弱く疲れやすい。 ・対人関係やコミュニケーションが苦手。 ・社会生活に慣れていない。 ・病気のことを知られたくない。 ・細かいことにこだわったり、考えがたくなになりがち。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ゆっくり丁寧に接する。 ・不安を感じさせないような穏やかな態度で対応する。 
外国人の方	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語を理解できない。 ・文化、習慣、様式が異なる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・コミュニケーションを大切にする。 

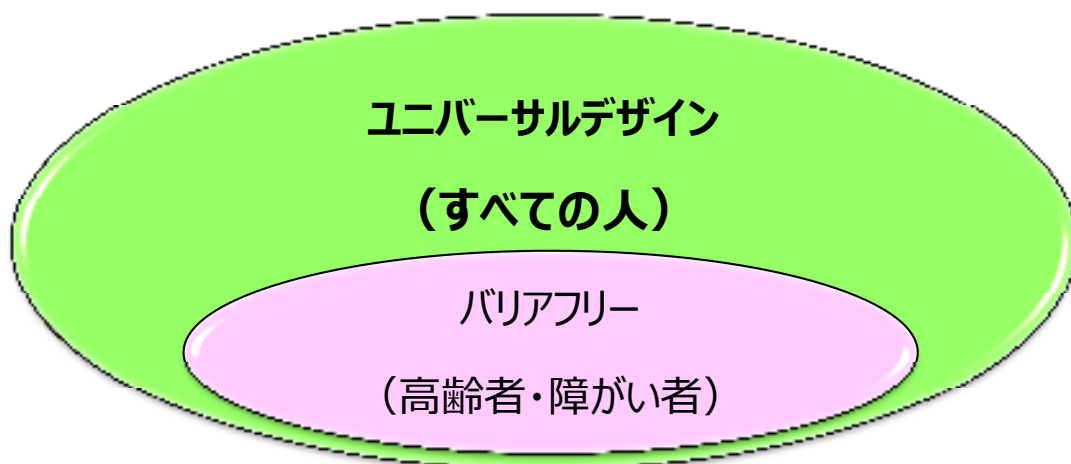
バリアフリーとユニバーサルデザインの関係

「バリアフリー」と「ユニバーサルデザイン」の違いは何でしょうか？めざすべき方向性は同じであるため混同されがちですが、下記のように分類できます。

概念図とともに見ていくとわかりやすいと思います。

	ユニバーサルデザイン	バリアフリー
考え方	はじめからバリアを作らない	あとからバリアを取り除く
対象者	すべての人 ⇒人を分けて考えない	特定の人（高齢者・障がい者） ⇒人を分けて考える
バリア	そもそもバリアがない	そもそもバリアがある
整備度	だれもが使えるように	健康な大人と同じように
共通点	暮らしやすい社会をつくろうという考え方	

《概念図》



バリアフリーは、高齢の方や障がいのある方が、安心して安全に生活できるようにバリア（障壁）をなくすことです。それを一歩進め、だれもが生活しやすい環境に整えることがユニバーサルデザインの概念です。
不自由さを感じている人たちの生活をイメージすることが重要です。



だれもが利用しやすい街になるための情報

ユニバーサルデザインの推進

ユニバーサル社会の実現のために必要で役立つ情報が満載の、ユニバーサルデザインを実践するための各種手引がダウンロードできます。

おおいたユニバーサルデザインのページ

検索



利用しやすい施設

いろいろな人が外出しやすい社会づくりを進めるために、公共・民間施設のバリアフリー状況（多目的トイレ、授乳室の有無など）を大分県のホームページで公開しています。

大分バリアフリーマップ

検索

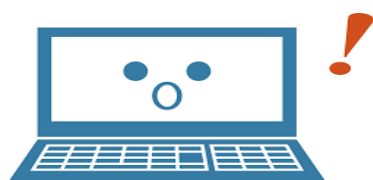


大分県福祉のまちづくり条例

高齢者、障がい者を含むすべての方が、自由に行動し、あらゆる分野の活動に参加することができる福祉のまちづくりをめざして様々な施策に取り組んでいます。

大分県福祉のまちづくり条例

検索





だれもが使いやすく 出かけられる街へ
～さりげない配慮、ちょっとした優しさ～

平成 28 年 11 月発行

発行)別府市福祉保健部障害福祉課

【参考文献】

街中での案内・介助の手引き
ユニバーサルデザインの学習資料
だれもが利用しやすい施設づくりの手引き
(大分県)
みんなにやさしいお店づくり
(福岡市)